

新春対談

広島市長

ピアニスト

松井一實 × 萩原麻未

音楽の あふれる まちづくりで 広島を元気に

音楽は、元気や勇気を与えてくれたり、気持ちを和ませたり、悲しみに寄り添ったり、被爆後の復興においても人々に希望を与えたといわれています。今回は、広島出身の世界的ピアニスト・萩原麻未さんと松井市長が、昨年を振り返りながら、音楽の持つ力や、音楽とまちづくりについて語り合いました。



新型コロナウイルスに 翻弄された一年

市長 昨年来、新型コロナウイルス感染症の影響で、さまざまな活動が制限される事態になりました。萩原さんにとっても影響が大きかったのではないですか？

萩原 2月末の東京でのリサイタルを最後に、その後の演奏会がほぼ全てキャンセ

ル・延期になりました。そのような状況を経験した今、改めて何の心配もなく音楽に浸れる環境があるというのは本当にありがたいことだったんだなと実感しています。演奏会のスタッフの方々も、キャンセルの手続きに忙殺され、経済的にも大変な思いをされています。音楽だけでなく、全ての分野においてそうだったことを考えると、本当に辛い一年だったと思います。

市長 多くの方が日常的な活動ができる環境があつてこそ、演奏会も成り立つということですよ。

萩原 ありがたいことに、緊急事態宣言解除後は、感染防止対策をとりながら演奏会も開催されるようになりました。これからはどうなるかわからない状況ですが、音楽は、日々生活する上で心の栄養になったり、明日生きる希望になったりするという面もありますから、少しずつでも前向きな方向に向かっていけばいいなと思っています。

市長 私は、新型コロナウイルスという脅威が人々の平穏な日常活動を妨げているという構図を「平和」に置き換えることができると思うんです。例えば戦争などが起こり平和な状況でなくなると、人々は

通常の日常生活が送れなくなる。当然演奏会などもできなくなりますよね。平和な状況が保たれてこそ人類に対する脅威が取り除かれるということ、コロナ禍で、身をもって体験されたのではないのでしょうか。その経験を基に、演奏会ができるような世の中が本当に大切で、それができる環境をみんなで維持しましょうと、いろいろな形で訴えていただきたいです。その良さをずっと味わえるようにした方がいいねと思ってもらうことが、脅威に対する防波堤になるのではないのでしょうか。

故郷広島と平和への思い

市長 萩原さんは安佐南区のご出身で高校卒業まで広島で過ごされて、広島と関わる音楽活動もされています。広島のまちや平和についての思いを聞かせていただけますか。

萩原 私は被爆3世で、母方の祖父母から被爆体験などを聞いて育ちました。平和について考える機会は多かったと思います。広島で生まれ育った1人として、音楽を通して少しでも平和への貢献ができたらと思って活動していますし、私より下の世代の子どもたちには、もし自分の身に起こったことだったらと、被爆体験を自

分に置き換えて考えてもらおう場がもっと増えたらいいなと思っています。決して風化させてはいけないことですよ。

市長 広島の地で成長する中で、被爆の実相をより身近に感じるという経験がまずあったということですね。私は、被爆の実相というのは、その残酷な「死」と「生きる」ということを対比して、自分の人生をしっかりと考える思考を身に付けるということだとも思うんです。その思考に影響を及ぼすきっかけの一つが、音楽ではないでしょうか。生と死といったことを考える上で、感性に訴えて大きな影響を与えることができる——音楽には、それほど強い力があると思うんです。

萩原 数年前から明子さんのピアノ※という被爆ピアノとご縁をいただき、6月末のレストハウス完成式や8月5日、6日の「平和の夕べ」コンサートでも演奏させていただきました。その際に思ったのは、平和について、言葉で伝えることも

もちろん大切ですが、今もこうして生き残って大切にされている被爆ピアノの音を通して、直接人の心に訴えかけることもできるということです。市長が仰ってくださったように、音楽にできることは多いと思いますし、私自身もそうした活動をこれからもたくさん心掛けていくつもりです。



市長 被爆を生き残ったピアノを活用して音を皆さんに伝える。そうやって改めて平和について考えてもらうことで、より強いメッセージを多くの人に発信できますよね。生涯、そういった視点を持ちながら演奏家としての活動を続けてもらえたらと願っています。



広島市長
まつい かずみ
松井一實

あけましておめでとうございます。2021年が市民の皆さんにとって良い年でありますよう、お祈り申し上げます。

※河本明子さんはロサンゼルスで広島出身の両親の元に生まれ、昭和8年、ピアノとともに広島に帰郷。19歳の時、勤労奉仕中に現在の中区八丁堀周辺で被爆し、翌日亡くなった。三滝町の自宅で被爆し爆風で傷付いたピアノは修復され、被爆60周年を記念するコンサートなどで演奏された。昨年7月からリニューアル開館した平和記念公園レストハウスで常設展示されている